

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第45回 全国中学校バスケットボール大会	期間 2015年8月22日(土)～8月25日(火)
開催地 香川県 一関市 奥州市	会場 一関市総合体育館・奥州市総合体育館
参加者 田中 充	所属地区名 名寄地区
講師 ◇前日A級研修会・審判レクチャー講師 …玉木 彰治 氏(本部・富山AA)、田邊 真由美 氏(本部・兵庫AA)	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など ◇審判レクチャー …テーマ「これからの日本～ジュニア期を相手にする者として～を考える」	
実技研修、座学研修等の記録 ◇A級研修会 今年度も昨年度に引き続き、高校生のモデルゲームを用いて2パーソンでの研修を行った。テーマは「2人の協力(2人の距離)」。大会初日の上級審判員と日本公認審判員のペアで起こりうるメカニクスの不具合から起きる色々な場面上級審判員としてどのように対応していくかという内容であった。 今回、田中は主任として各審判員にアドバイスをさせていただき役割をいただき多少恐縮したが、ゲーム運営の差やメカニクスの不具合について色々伝える中で、自分自身も振り返る良い機会となった。 ◇審判レクチャー 本部・田邊氏より上記内容についてレクチャーがあった。今後の日本について「ゾーンディフェンス禁止」の話題や「中学生の全国大会で気をつけること」として、2人の協力やTOとのコミュニケーションなどについての確認を行った。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2015年8月23日 (日)	対戦カード 男子予選Eリーグ 滑石(長崎)42 - 54松陰(千葉)
主審 田中 充	相手審判 千葉 忍 氏(岩手 公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートディフェンスへの対応をそれぞれ確認した。1on1ベースの両チームなので、ドライブにまつわる突き出しや、ディフェンスの手の使い方を見極めることも確認。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:豆塚 宣男 氏(熊本 A) 2人で協力してゲームをまとめていた。 ただ、途中で若干ハードな触れ合いが出始めたので、そこにもう少し早く対応できるとさらに良かった。 ◇本部・玉木氏(AA)より 特に大きな問題はなかったと感じる。落ち着いてよく動いていた。	
ゲーム感想 ゲームとしては、それほど難しい接触はなくイージーゲームだった感じている。全国大会のということもあり「負けたら終わり」なので、最後まで両チームともあきらめない姿勢が続いた。そのため、主任から合ったように必要以上の接触が起きた時の吹き方などには課題が残ったと感じる。日頃北海道での課題が出てしまった。また、相手審判との協力も、前日の研修会で起こりうるケースとして挙げられていたことが多く起こった。ここに対してはコミュニケーションを取ったりしながら対応できたと感じている。	

実践実技2

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2015年8月24日 (月)

対戦カード 男子決勝トナメント準々決勝 本丸(新潟)31 - 49実践学園(東京)

主審 田中 充

相手審判 高平 吉康 氏(宮城 A)

ゲーム前のカンファレンス内容

2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。

2人でボクシングインを意識し、触れ合いを2人とも確認できないということが無いように確認。

また、実践学園の大型プレイヤーに対する守り方、特に手の使い方については早い段階で基準を示すように心がけることとした。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:東條 輝正 氏(東京 A)

しっかりまとめられていて良いゲームだった。強いていえば実践学園の大型プレイヤーに対する守り方について、もう少し簡単に吹いて良い場面が1~2ケースあったのではないかな。

ゲーム感想

今大会結果的に優勝した実践学園のゲーム。180cm代後半の選手が常に複数コート上に立つ。対するは粘り強く頑張る伝統校の本丸。それぞれに気合いの入った戦いとなり、こちらも最後まで集中してゲーム②取り組むことができた。実践のセンターがダブルハイやハイローを使用するので、相手審判と常に分担や協力を確認しながらゲームを進めた。おかげで2人とも目が当たっていないケースはほとんどなかったと思うが、だからこそすんなり判定した方が良かったインサイドの競り合いが少しあったのは課題と感じる。

実践実技3

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2015年8月25日 (火)

対戦カード 女子準決勝 布水(石川)68 - 58長良(愛知)

第2副審 田中 充

相手審判 主審 藤代 透 氏(東京 A)
第1副審 長谷川 裕 氏(神奈川 A)

ゲーム前のカンファレンス内容

メカニックでは3番4番エリアからのストロングサイドのドライブに対する受け方を確認、基本的にリードは受けること。ベテランのクルーなのでカバーしあいながらこうと確認。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:加藤 加織 氏(滋賀 A)・佐賀 雄幸 氏(宮城 A)

ベテラン3人のクルーなので、お互いの分担やカバーがなされており、安心して見ていられる展開であった。長良のオフボールの身体の使い方への対応も素早かったと思う。やはりバランスは大切だと感じた。

ゲーム感想

今年の全中でも最終日の割当をいただいて感謝している。クルーは全中では珍しくA級同士でのメンバーで、それもこれまで何度も全中で一緒に切磋琢磨させていただいているメンバーであったので、私自身も安心してゲームに入れた。立ち上がりから小さい選手が大きい選手に対してオフボールで不当な接触を行っていたので、3人で笛を入れることによりゲームの進行と比例してスムーズな進行になっていたと思う。

まとめ

今年の全中では前日の研修で、主任としてアドバイスを中心に行う経験をさせていただいたことにより、自分のことだけではなく、日本の中学生カテゴリーの上級審判員としての話を本部の方々からもされ、身の引き締まる思いで本大会を迎えました。気がつけば中学生カテゴリーの上級審判も増え、2日目の主審や最終日の割当に入ることがなかなか難しくなっています。その中で、2日目はベスト4決めの主審、最終日も割当をいただけたということは、改めて道内での経験や研鑽がこの場で活着していると感じます。

やはり見て学ぶことも大切ですが、3日間オンザコートで感じる事がより自分の経験値としては重要になってくると思います。この経験値を道内で活用していくことで更なるレベルアップにつながると感じています。

最後になりましたが、今回もこのような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝しつつ、この場を借りてお礼申し上げます。